

# 資料編

---

## 参考文献一覧

---

### 第1章第1節

- 震災予防調査会, 1925 : 震災予防調査会報告百号戊  
警視庁消防部, 1924 : 帝都大正震火記録  
東京消防庁, 1980 : 東京の消防百年のあゆみ  
土木学会, 1924 : 土木学会誌10巻第2号  
横浜市, 1926 : 横浜市震災誌  
神奈川県警察部, 1926 : 大正大震火災誌  
東京都墨田区, 1977 : 「関東大震災体験記録集」  
鈴木淳, 1999 : 『町火消たちの近代』  
鈴木淳, 2004 : 『関東大震災－消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書

### 第1章第2節

- 大阪府, 1923 : 『関東地方関東救援誌』  
高山辰三・田中貢太郎編著, 1924 : 『叙情日本震災史』, 教文社  
東京府, 1924 : 『大正震災美績』  
日本赤十字社, 1924 : 『大正十二年関東大震災日本赤十字社救援誌』  
恩賜財団済生会, 1925 : 『大震火災臨時救療誌』  
警視庁, 1925 : 『大正大震火災誌』  
社団法人実費診療所編輯, 1926 : 『社団法人実費診療所の歴史及事業』  
群馬県立文書館蔵, 「関東大震災関係史料」  
東京市役所, 1925 : 『東京震災録』 中輯  
東京市衛生課, 1925 : 『東京市震災衛生救療誌』  
東京府, 1925 : 『東京府大震災誌』 (縮刷復刻版, 中外書房, 1971年)  
内務省社会局, 1926 : 『大正震災志』 上・下  
長野県, 1929 : 『大正十二年長野県震災誌』  
厚生省医務局, 1976 : 『衛生統計からみた医制百年の歩み』  
新潟大学医学部, 1962 : 『新潟大学医学部五十年史』  
東京慈恵医科大学, 1964 : 『東京慈恵医科大学八十五年史』  
金沢大学医学部第一内科百年史編集委員会, 1984 : 『百年史』  
慶応義塾医学部, 1931 : 『慶応義塾医学部創立10周年記念誌』  
松尾章一監修・田崎公司・坂本昇編集, 1997 : 『陸軍関係史料』 関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅱ巻, 日本経済評論社  
海後宗臣編, 1960 : 『臨時教育会議の研究』, 東京大学出版会  
鈴木淳, 2004 : 『関東大震災－消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書  
中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会, 2006 : 『1923関東大震災報告書第1編』

### 第1章第3節

東京市二葉尋常小学校, 1924 : 『臆九月一日』

静岡県, 1924 : 『静岡県大正震災誌』

鉄道省, 1925 : 『鉄道省年報 大正十二年度』

東京府, 1925 : 『東京府大正震災誌』

横浜市, 1926 : 『横浜市震災誌』第三冊

渋沢元治, 1926 : 「災害ニ因ル電気工作物ノ被害状況」, 震災予防評議会『震災予防調査会報告』第百号丁

那波光雄, 1926 : 「国有鉄道震害調査報告」, 震災予防評議会『震災予防調査会報告』第百号丁

松尾章一監修, 田崎公司・坂本昇編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料』第二巻, 日本経済評論社

東京電力, 2002 : 『関東地方の電気事業と東京電力』

上野駅互助団, 1932 : 『上野駅史』(大正期鉄道史資料第I期第2集第6巻として1984年に日本経済評論社が影印刊行)

小田原市, 1993 : 『小田原市史 史料編 近代II』, 小田原市

佐々木富泰・網谷りょういち, 1993 : 『事故の鉄道史』, 日本経済評論社

震災共同基金会, 1930 : 『十一時五十八分』, 東京朝日新聞社

1929年に有馬頼章が会長を務めた震災共同基金会が東京朝日新聞社の後援を得て募集した手記752篇中、入賞した34篇を編集したもの。募集条件に「自身の体験実話であること」、「事実有りの俚を記し誇張や粉飾や作為を加へぬ事」があり、審査員として有馬のほか今村明恒、東京市長堀切善次郎、元同永田秀次郎などが名を連ねており、また幅広く震災経験者の目に曝されることを前提に書いているので、手記集としてはかなり信頼性が高いものと考えられる。

鉄道省, 1927 : 『国有鉄道震災誌』(大正期鉄道史資料第II期第1巻として1990年に日本経済評論社が影印刊行)

東京南鉄道管理局・東京駅, 1973 : 『東京駅史』

土木学会, 1927 : 『大正十二年関東大地震 震害調査報告 (第二巻)』

中野敬次郎, 1969 : 『小田原近代百年史』, 形成社

### コラム2

中村清二, 1925 : 大地震による東京火災調査報告, 『震災予防調査会報告』第百号戊, 震災予防調査会, 81-134.

吉村昭, 2004 : 『関東大震災』, 文春文庫

鈴木淳, 2004 : 『関東大震災－消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書, 232.

中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会, 2006 : 『1923関東大震災報告書第1編』

### 第2章第1節

「公文備考」: 防衛省防衛研究所図書館所蔵

旧海軍の史料。本節に関わる史料の同図書館での請求記号は次のとおり。「大正12年 公文備考 巻155 変災災害3 震災関係2」(請求記号: ㊟一公文備考-T12~157)、「大正12年 公文備考 巻156 変災災害4 震災関係3」(請求記号: ㊟一公文備考-T12~158)。

「関東戒厳司令部詳報」第三巻: 東京都公文書館所蔵

陸軍震災資料・第四(分類番号: 094.5/り/4)、原本が傷んでいること、及び内容に個人情報が含まれることから、閲覧制限がある。松尾章一監修(1997b)、田崎公司・坂本昇編『関東大震災政府陸海軍関係史料 II 巻 陸軍関係史料』日本経済評論社, 135-199頁に翻刻されている。

1923年9月4日閣甲第143号「震災ニ付テノ処置ヲ為スコトノ件」

JACAR(アジア歴史資料センター) Ref. A03023581000, 公文別録・内閣・大正十二年~昭和十九年・第一巻・大正十二年~昭和八年(国立公文書館)。

この文書の写しが、松尾章一監修(1997a)、大竹米子・平形千恵子編『関東大震災政府陸海軍関係史料 I 巻 政府・戒厳令関係史料』日本経済評論社, 52-59頁に収録されている。

「田健治郎関係文書」: 国立国会図書館憲政資料室所蔵

『大阪毎日新聞』号外, 1923年9月19日: 国立国会図書館所蔵のマイクロフィルムによる。

伊藤隆監修, 1990: 百瀬孝著『事典 昭和戦前期の日本 制度と実態』, 吉川弘文館

秦郁彦編, 2001: 『日本官僚制総合事典1868-2000』, 東京大学出版会

大江志乃夫, 1978: 『戒厳令』, 岩波書店 岩波新書

五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編, 1998: 『詳説日本史研究』, 山川出版社

大震会, 1971: 『内務省史』 3, 地方財務協会

警視庁, 1925: 『大正大震災火災誌』

内務省社会局, 1926: 『大正震災志』 下

鈴木淳, 2004: 『関東大震災—消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書

東京市政調査会, 1930: 『帝都復興秘録』, 宝文館

赤池濃, 1923: 「大震災当時に於ける所感」, 『自警』, 1923年11月号

姜徳相・琴秉洞編, 1963: 『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』, みすず書房

琴秉洞編, 1996: 『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅲ 朝鮮人虐殺に関する知識人の反応』 1, 緑蔭書房

東京市, 1926: 『東京震災録』 前輯

警視庁史編さん委員会, 1960: 『警視庁史』 大正編

佐野眞一, 2007: 『枢密院議長の日記』, 講談社 講談社現代新書, 国立国会図書館憲政資料室所蔵「倉富勇三郎関係文書」中の日記を引用・解説している。

宇佐美龍夫, 2003: 『最新版 日本被害地震総覧 [416] -2001』, 東京大学出版会

後藤文夫, 1923: 「震災当時の追想並其教訓の一端」, 『自警』, 1923年11月号

大震会, 1977: 『内務省外史』, 地方財政協会

東京府, 1925: 『東京府大正震災誌』, 中央出版社による縮刷復刻, 1974

日本電信電話公社関東電気通信局, 1968: 『関東電信電話百年史』 上, 電気通信協会

松尾章一監修, 1997c: 逢坂英明・田中正敬編『関東大震災政府陸海軍関係史料 Ⅲ巻 海軍関係史料』, 日本経済評論社

新聞資料ライブラリー監修, 1992: 『シリーズその日の新聞 関東大震災 (上) 激震・関東大震災の日』, 大空社

波多野澄雄・黒沢文貴編, 2000: 奈良武次著『侍従武官長奈良武次日記・回顧録 第1巻 日記 (大正9～12年)』 柏書房。震災当時, 奈良は侍従武官長兼東宮武官長 (陸軍中将), 参照箇所は1923年9月7日の日記。

伊藤隆・広瀬順昭編, 1990: 牧野伸顕著『牧野伸顕日記』 中央公論社。震災当時, 牧野は宮内大臣, 参照箇所は1923年9月7日の日記。

帝都復興事務局, 1931: 『帝都復興事業誌 緒言・組織及法制篇』

田健治郎伝記編集会, 1932: 『田健治郎伝』 大空社による復刻1988

## 第2章第2節

万木才吉, 1914-1915: 火災, 『偕行社記事』 485 - 486号, 73 - 91, 109 - 122

吉田律人, 2008: 軍隊の「災害出動」制度の確立—大規模災害への対応と衛戍の変化から—, 『史学雑誌』 117編第10号

土田宏成, 2002: 帝都防衛態勢の変遷—関東大震災前後を中心として—, 上山和雄編『帝都と軍隊—地域と民衆の視点から』, 3-36

東京市役所, 1926: 『東京震災録』 前輯・別輯

陸軍省, 1929: 『自明治三十七年至大正十五年陸軍省沿革史』, 巖南堂書店

松尾章一監修, 1997: 『関東大震災政府陸海軍関係史料』 I～III巻, 日本経済評論社

松尾章一, 2003: 『関東大震災と戒厳令』, 吉川弘文館

鈴木淳, 2004: 『関東大震災—消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書

東京市政調査会編, 1930: 『帝都復興秘録』, 宝文館

陸軍省医務局, 1923: 『大正十二年九月陸軍震災救療誌』

陸軍軍医学校：『関東地方震災関係業務詳報』，陸上自衛隊三宿駐屯地彰古館所蔵  
 陸軍衛生材料廠，1975：『陸軍衛生材料廠歴史』，陸上自衛隊衛生補給所  
 海軍軍医学校，1923：雑報，『海軍軍医会雑誌』第41・42合併号，65 - 71  
 関東大震災50周年朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会・調査会，1975：『歴史の真実—関東大震災と朝鮮人虐殺』，現代史出版会  
 近衛歩兵第四聯隊史編纂委員会，1981：『近衛歩兵第四聯隊史』，近歩四錦紫会  
 野重七聯隊史編纂委員会，1973：『野戦重砲兵第七聯隊史』，野重七聯隊会  
 森岡守成，1937：『余生隨筆』，日本国防協会  
 近歩第一聯隊史刊行委員会，1986：『近衛歩兵第一聯隊歴史』，全国近一会，653 - 661  
 毛塚五郎，1993：『関東大震災と三浦半島』  
 森五六述，1969：関東大震災の思い出，『日本歴史』256号  
 王京，2007：関東大震災と航空写真，『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』，神奈川大学21世紀COEプログラム，147-179  
 黒坂勝美，1937：『福田大将伝』，福田大将伝刊行会，1937  
 鈴木一編，1968：『鈴木貫太郎自伝』，時事通信社  
 帝国在郷軍人会本部，1923：『戦友』，第160号  
 水野廣徳，1923：大災記，『中央公論』，10月号，119 - 132  
 水野廣徳，1923：大杉殺害と軍人思想，『中央公論』，11月号，65 - 70  
 山崎今朝弥，1982：『地震・憲兵・火事・巡查』，岩波文庫

## 第2章第3節

### (1) 一次資料

「記事取締に関する書類綴」（国立公文書館所蔵）。内務省警保局図書課新聞係の作成による。同資料は松尾章一監修『関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅰ巻 政府・戒厳令関係史料』に所収されている。

「大正12年 公文備考」（防衛省防衛研究所図書館所蔵）。「公文備考」は海軍側の公文書であり、現在は防衛省防衛研究所図書館で閲覧できる。「大正12年 公文備考」のうち、関東大震災関係の簿冊として、「変災災害2 巻154 震災関係1」～「変災災害9 巻161 震災関係8」（請求番号：⑩-公文備考-T12～156から161まで）、「災害附属 巻一」～「附属変災災害 巻十六」、「附属災害変災 巻十八」（請求番号：⑩-公文備考-T12～169から184、185）が確認される。

「朝鮮問題に関する協定」。国立国会図書館憲政資料室所蔵「旧陸海軍関係文書」「震災関係（二）」（請求番号：T57）に所収されている。同様の資料は姜徳相・琴乗洞編『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』に翻刻され、琴乗洞編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係資料Ⅱ 朝鮮人虐殺関連官庁史料』に複写版が掲載されている。原資料は「大正12年 公文備考 変災災害3 巻155 震災関係2」でも確認できる。

「警察報告 冊の十三」（東京都公文書館所蔵）。警視庁の作成による。震災発生の9月1日から11月11日まで、被災地の状況を臨時震災救護事務局など関係機関に逐次報告したもの。鈴木淳『関東大震災』は同資料をもとに、震災当時の警視庁の連絡体制に言及している。

「関東地方震災救護一件」（奈良県立図書情報館所蔵）。奈良県庁の作成による。9月1日から5日の臨時震災救護事務局の活動状況をまとめている。ただし、『現代史資料6』収録資料の記述と相違する箇所がある。

「震災後に於ける刑事事犯及之に関連する事項調査書」。同資料は『現代史資料6』に翻刻され、資料中の各表の数値は1923年11月15日時点のものである。なお、「山岡萬之助関係文書」（法務図書館所蔵、国立国会図書館憲政資料室で閲覧可）にも同名の資料が所収されているが、各表の数値は1923年11月30日時点であり、『現代史資料』収録資料の記述と相違する箇所がある。

「田健治郎日記」（国立国会図書館憲政資料室所蔵）。田健治郎は震災発生当時、台湾総督。震災翌日の9月2日、第二次山本権兵衛内閣の農商務大臣兼任司法大臣に就任し、同7日司法大臣を辞職した。荻野富士夫「一九二〇年代前半の治安立法構想（Ⅱ）」は同資料に基づいて治安維持令の制定過程を検討している。

「倉富勇三郎日記」(同上)。倉富は震災発生当時、枢密顧問官。倉富は震災当日の9月1日午後7時の臨時閣議に召集され、内務大臣の水野錬太郎から、戒厳令施行を見合わせる旨を聴取している。佐野眞一『枢密院議長の日記』は同資料について詳細に言及している。

## (2) 資料・文献

- 神奈川県編, 1921, 1923 : 『神奈川県統計書』, 同 (編者と同一。以下同じ)
- 千葉県知事官房編, 1922 : 『千葉県統計書』, 千葉県
- 警視庁編, 1922, 1923, 復刻版1997 : 『警視庁統計書』, クレス出版
- 埼玉県編, 1923 : 『埼玉県統計書』, 同
- チャールズ・ビーアド, 1923 : 『東京市政論』, 東京市政調査会
- 大日本雄弁会講談社編, 1923 : 『大正大震災大火災』, 同
- 大阪府編, 1924 : 『関東地方震災救援誌』, 同
- 警視庁編, 1925 : 『大正大震災火災誌』, 同
- 神奈川県警察部編, 1926 : 『大正大震災火災誌』, 同
- 東京市役所編, 1926 : 『東京震災録』前・中・後輯, 同
- 西坂勝人, 1926 : 『神奈川県下の大震災火災と警察』, 警友社
- 東京市政調査会編, 1930 : 『帝都復興秘録』, 同
- 水野錬太郎, 1930 : 『我観談屑』, 萬里閣書房
- 吉河光貞, 1949 : 『関東大震災の治安回顧』特別審査局資料第1輯, 法務府特別審査局
- 警視庁史編さん委員会編, 1960 : 『警視庁史 大正篇』, 警視庁
- 姜徳相・琴秉洞編, 1963 : 『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』, みすず書房
- 大霞会編, 1970 : 『内務省史』, 第2巻, 地方財務協会
- 神奈川県企画調査部県史編集室編, 1974 : 『神奈川県史』資料編第11巻, 神奈川県
- 埼玉県警察本部編, 1974 : 『埼玉県警察史』, 第1巻, 同
- 千葉県警察本部編, 1981 : 『千葉県警察史』, 第1巻, 同
- 琴秉洞編, 1991 : 『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係資料Ⅱ 朝鮮人虐殺関連官庁史料』, 緑蔭書房
- 加藤文三, 1991 : 『亀戸事件 隠された権力犯罪』, 大月書店
- 大日方純夫, 1993 : 『警察の社会史』, 岩波新書
- 吉野作造, 1996 : 『吉野作造選集4』所収「自警団暴行の心理」, 岩波書店
- 松尾章一監修, 平方千恵子・大竹米子編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅰ巻 政府・戒厳令関係史料』, 日本経済評論社
- 姜徳相, 2003 : 『[新版] 関東大震災・虐殺の記憶』, 青丘文化社
- 松尾章一, 2003 : 『関東大震災と戒厳令』, 吉川弘文館, 歴史文化ライブラリー
- 山田昭次, 2003 : 『関東大震災と朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』, 創史社
- 鈴木淳, 2004 : 『関東大震災—消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書
- 佐野眞一, 2007 : 『枢密院議長の日記』, 講談社現代新書

## (3) 雑誌

- 1923・10 : 『地方行政』, 第31巻第10号
- 1923・11 : 1924・7 : 『自警』, 第5巻第51号 ; 第6巻第59号
- 1923・11 : 『中央公論』, 第38巻第12号
- 1923・11・12合併号 : 『我等』
- 1924・9-11 : 『警察協会雑誌』, 第289-291号

## (4) 論文

- 後藤文夫, 1975 : 日本警察の歩みを語る (その四), 警察研究, 第46巻第5号
- 荻野富士夫, 1980 : 一九二〇年代前半の治安立法構想 (Ⅱ), 政治経済史学, 第16号
- 宮地忠彦, 2005 : 『自治訓練』としての『自衛団』組織化, 法学政治学論究, 第64号

### 第3章第1節

- 小川織三, 1924 : 震災による東京市水道の被害並に応急処置(大正十三年三月一日土木学会第三十三回 講演会に於て), 『土木学会誌』, 第10巻第2号
- 木原清, 1924 : 大震当時芝浦に於ける配給業務, 『港湾』第2巻第5号, 港湾協会
- 鈴木淳, 2004 : 『関東大震災—消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書
- 竹内季一, 1924 : 震災による東京市道路橋梁の被害並に応急処置(大正十三年四月十一日土木学会第三十四回 講演会に於て), 『土木学会誌』, 第10巻第2号
- 武村雅之, 2005 : 『手記で読む関東大震災』, 古今書院
- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会, 2006 : 『1923関東大震災報告書第1編』
- 東京市, 1926 : 『東京震災録中輯』
- 東京市, 1927 : 『東京震災録別輯』
- 東京市衛生課, 1925 : 『東京市震災衛生救療誌』
- 東京市庶務課, 1925 : 『東京大正震災誌』
- 東京市政調査会, 1930 : 『帝都復興秘録』, 宝文館
- 東京大学新聞研究所「災害と情報」研究班編, 1987 : 『都市災害の情報問題—その1—』
- 東京都, 2005 : 『都史資料集成第6巻 関東大震災と救護活動』
- 東京府, 1925 : 『東京府大正震災誌』
- 松尾章一監修, 田崎公司・坂本昇編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅱ巻 陸軍関係資料』, 日本経済評論社
- 村松竹太郎, 1943 : 『東京都政秘話』, 秀文閣書房
- 臨時震災救護事務局, 1924 : 『震災被害並救護施設の概況』
- 臨時震災救護事務局総務部, 1923 : 『大正十二年十月十日調 震災被害状況並救護施設概要』

### 第3章第2節

- 偕行社, 1923・10 : 『偕行社記事589号 震災号』  
付図が多数収められている。横浜・神奈川に関しては、「関東戒厳地域内警備配置要図」「横浜市附近火災地域及警備隊並救護機関配置要図」「横浜市警察官配置要図」がある。
- 改造社, 1924 : 『大正大震災火災誌』  
横浜・神奈川については、「神奈川県(横浜市横須賀市を含む)の救護状況」と題する臨時震災救護事務局事務官の報告が掲載されている。
- 横浜市, 1926 : 『横浜市震災誌 第1～5冊』  
第1冊が「概説」、第2冊が「災害と遭難」、第3冊が「各方面の被害と復興」、第4冊が「救援と救護」「震災直後に於ける本市復興の諸相」、第5冊が「善行美蹟」「遭難記と見聞誌」という内容である。
- 西坂勝人, 1926 : 『神奈川県下の大震災火災と警察』, 警友社  
著者は神奈川県警察部高等課長である。震災直後における県内の各警察署および個々の警察官の活動について詳しい。
- 神奈川県警察部, 1926 : 『大正大震災火災誌』  
警察による記録である。「災害の状況」「警備及救護施設の概要」「各警察署に於ける救護及施設概要」「陸海軍の警備及警護」「地震と気象」という内容である。
- 神奈川県衛生課, 1926 : 『神奈川県震災衛生誌』  
神奈川県内での医療救護分野の記録として詳しい。「救護班」「伝染病」「死体の処置」「水道水路及飲料水」という章立てに加え、衛生課職員の日誌も収められている。
- 神奈川県, 1927 : 『神奈川県震災誌』  
救援・救済については警察の活動を中心にまとめられている。さまざまな数字が網羅的に掲載されている。また、郡部の状況についても多くの頁が割かれている。

横浜市, 1932 : 『横浜復興誌 第1巻』

本書は、インフラを中心とした都市横浜の復興の記録をまとめた全4巻本だが、第1巻の「復興前記」編の中に、応急の救援活動の概要について記述がある。

神奈川県, 1974年 : 『神奈川県史 資料編11』

「第3章 関東大震災」として、「神奈川県下震災状況に関する県知事安河内麻吉の報告」「臨時震災救護事務局神奈川県支部設置の件通知」「臨時震災救護事務局の組織と活動」など。

O. M. プール, 金井圓・訳, 1976年 : 『古き横浜の壊滅』, 有隣堂

原題は“The Death of Old Yokohama”(1968)。旧外国人居留地のイギリス商社に勤務していたアメリカ人の被災体験記。イギリスの汽船より受けた救援・救済の状況が記述されている。

神奈川県立歴史博物館, 2003 : 『80年目の記憶－関東大震災といま－』

同館で行われた特別展の展示図録。避難者の様子や救援・救済のための諸施設を撮した写真が多数掲載されている。

今井清一, 2007 : 『横浜の関東大震災』, 有隣堂

横浜における関東大震災を取り上げた数少ない研究書。関内や山手など各地区の罹災の様子が詳説されている。続けて流言と虐殺の問題について比較的多くの頁があてられている。

### 第3章第3節

「公文備考」：防衛省防衛研究所図書館が所蔵する旧海軍の史料。本節に関わる史料の同図書館での請求記号は次のとおり。「大正12年 公文備考 巻155 変災災害3 震災関係2」（請求記号：⑩－公文備考－T12～157），「大正12年 公文備考 巻156 変災災害4 震災関係3」（請求記号：⑩－公文備考－T12～158）。

『報知新聞』1923年11月14日：国立国会図書館所蔵のマイクロフィルムによる。同記事は、後掲の姜徳相・琴乗洞編（1963），33-35頁に収録されている『法律新聞』1923年11月20日記事のもとになったものである。なお、船橋送信所長の発言が、周辺の自警団による朝鮮人殺害の引き金になってしまったことは、戦後に行われた聞き取り調査によっても裏付けられている（千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会〈代表：吉川清〉，1983：『いわれなく殺された人びと』，青木書店，48-56, 246-250頁）

千葉県罹災救護会, 1933 : 『大正大震災の回顧と其の復興』上巻・下巻, 千葉県罹災救護会 : 千葉県罹災救護会は1930年3月に設立され、千葉県の着手していた大震災誌編集計画を継承した。そして、関東大震災10周年を記念して本書を刊行した。上巻は主として県を中心とする観点からの記述、下巻は市町村の記録となっている。

千葉県安房郡役所, 1926 : 『安房震災誌』, 臨川書店による復刻版, 1987 : 千葉県内でもっとも大きな被害を受けた安房郡の記録である。震災による被害と「応急善後施設の概略」が記されている。

諸井孝文・武井雅之, 2004 : 「関東地震（1923年9月1日）による被害要因別死者数の推定」, 『日本地震工学会論文集』4-4

千葉県史料研究財団, 2006 : 『千葉県の歴史 通史編 近現代2』, 千葉県

白浜町中央公民館, 1989 : 『ふるさと白浜』

内務省社会局, 1926 : 『大正震災誌』上

富津市史編さん委員会, 1982 : 『富津市史 通史』, 富津市

木更津市史編集委員会, 1972 : 『木更津市史』, 木更津市

姜徳相・琴乗洞編, 1963 : 『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』, みすず書房

松尾章一監修, 1997 : 逢坂英明・田中正敬編『関東大震災政府陸海軍関係史料 III巻 海軍関係史料』, 日本経済評論社

吉河光貞, 1949 : 『関東大震災の治安回顧』, 法務府特別審査局

### コラム3

静岡県, 1924 : 『静岡県大正震災誌』

伊東市総務課, 1971 : 「関東大震災を語る地域集会概要記録」

宇佐美尋常高等小学校, 1923 : 「大正震災記」 一卷, 二巻  
「學校沿革誌」 : 多賀小学校所蔵  
「太兼文書」 : 伊東市湯川太田功氏所蔵

#### コラム4

中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会, 2006 : 『1923関東大震災報告書第1編』  
武村雅之, 2005 : 『手記で読む関東大震災』, 古今書院, 190  
武村雅之, 2008 : 『天災日記 : 鹿島龍蔵と関東大震災』, 鹿島出版会, 302  
内務省社会局編, 1926 : 『大正震災志』 上巻, 1236, 下巻, 836

#### コラム5

社会局, 1924 : 『震災ノ工場ニ及ホシタル被害並影響』  
佐藤好, 1926 : 「煉瓦造被害調査報告」, 『震災予防調査会報告 第百号 丙』, 震災予防評議会  
高木源之助, 1924 : 「工場の震害」, 『建築雑誌』 449, 1924年1月  
井上幸次郎, 1941 : 『大日本紡績株式会社五十年記要』, 大日本紡績株式会社  
協調会情報部, 1923 : 『震災に依る被害工場事情』 (第一, 二, 四報)  
安井正太郎, 1940 : 『東京電気株式会社五十年史』, 東京芝浦電気株式会社  
小山町史編さん専門委員会, 1992 : 『小山町史 第四巻 近現代資料編 I』, 小山町  
澤田謙・荻本清蔵, 1957 : 『富士紡績株式会社五十年史』, 富士紡績株式会社

#### 第4章第1節

自警会, 1923 : 『自警』 第5巻第51号, 自警会  
田中比左良, 1923 : 「竹槍さわぎ」, 『主婦之友』, 第7巻第10号, 主婦之友社  
三宅克己, 1923 : 「天災勃発」, 『カメラ』, 10月号, アルス  
和辻哲郎, 1923 : 「地異印象記」, 『思想』, 第25号, 岩波書店  
土田杏村, 1924 : 『流言』, 小西書店  
警視庁編, 1925 : 『大正大震災誌』, 警視庁  
穂積重遠, 1925 : 「町会と自治制」 『改版 町会規約要領』, 東京市役所内務省社会局編, 1926 : 『大正震災志』 上, 内務省社会局  
吉河光貞, 1949 : 『関東大震災の治安回顧』, 法務府特別審査局  
オルポート, ポストマン, 1952 : 『デマの心理学』, 岩波書店  
警視庁警備部・陸上自衛隊東部方面総監部編, 1962 : 『大震災対策資料』, 警視庁警備部  
鶴見俊輔ほか編, 1962 : 『日本の百年5 震災にゆらぐ』, 筑摩書房  
田中純一郎, 1979 : 『日本教育映画発達史』, 蝸牛社  
エドガール・モラン, 1980 : 『オルレアンのうわさ 第2版』, みすず書房  
タモツ・シブタニ, 1985 : 『流言と社会』, 東京創元社  
田崎公司・坂本昇編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅱ巻 陸軍関係史料』, 日本経済新聞社  
田中正敬・逢坂英明編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料Ⅲ巻 海軍関係史料』, 日本経済新聞社  
鈴木淳, 2004 : 『関東大震災—消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書

#### 第4章第2節

松尾章一監修, 田崎公司・坂本昇編, 1997 : 『関東大震災政府陸海軍関係史料』 第二巻, 日本経済評論社  
姜徳相・琴乗洞編, 1963 : 『現代史資料 (6) 関東大震災と朝鮮人』, みすず書房  
警視庁, 1925 : 『大正大震災誌』, 同  
琴乗洞編, 1996 : 『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅳ』, 緑蔭書房

サイモンズ＝ウィンチェスター, 柴田裕之訳, 2006: 『世界の果てが砕け散るーサンフランシスコ大地震と地質学の大発展』, 早川書房

横浜市, 1926: 『横浜市震災誌』 第一冊～第三冊, 同市

横浜市, 1927: 『横浜市震災誌』 第四, 五冊, 同市

## コラム6

鈴木淳, 2004: 『関東大震災ー消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書

武村雅之, 2005: 『手記で読む関東大震災』, 古今書院, 190

武村雅之, 2008: 『天災日記: 鹿島龍蔵と関東大震災』, 鹿島出版会, 302

今井清一, 1974: 『大正デモクラシー』, 日本の歴史第23巻, 中公文庫, 585

## コラム7

武村雅之, 1999: 「日記に記された大正関東地震の余震活動とその影響」, 『歴史地震』 第15号, 209-224.

武村雅之, 2003: 『関東大震災ー大東京圏の揺れを知る』, 鹿島出版会, 139.

武村雅之, 2005: 手記で読む関東大震災, 古今書院, 190.

## コラム8

松尾章一監修, 田崎公司・坂本昇編, 1997: 『関東大震災政府陸海軍関係史料』 第二巻, 日本経済評論社

姜徳相・琴乗洞編, 1963: 『現代史資料(6) 関東大震災と朝鮮人』, みすず書房

警視庁, 1925: 『大正大震災火災誌』, 同

琴乗洞編, 1996: 『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料IV』, 緑蔭書房

山田昭次, 2003: 『関東大震災時の朝鮮人虐殺ーその国家責任と民衆責任』, 創史社

仁木ふみ子, 1993: 『震災下の中国人虐殺ー中国人労働者と王希天はなぜ殺されたか』, 青木書店

加藤文三, 1991: 『亀戸事件ー隠された権力犯罪』, 大月書店

朝鮮大学校, 1963: 『関東大震災における朝鮮人虐殺の真相と実態』, 同

関東大震災五十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会, 1974: 『かくされていた歴史ー関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件』, 同会, 1987年増補保存版刊行

山岸秀, 2002: 『関東大震災と朝鮮人虐殺ー80年後の徹底検証』, 早稲田出版

千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会, 1983: 『いわれなく殺された人びとー関東大震災と朝鮮人』, 青木書店

関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会, 1992: 『風よ鳳仙花の歌をはこべ』, 教育史料出版会

田原洋, 1982: 『関東大震災と王希天事件ーもうひとつの虐殺秘史』, 三一書房

松尾章一, 2003: 『関東大震災と戒厳令』, 吉川弘文館, 歴史文化ライブラリー

姜徳相, 2003: 『〔新版〕 関東大震災・虐殺の記憶』, 青丘文化社

今井清一, 2007: 『横浜の関東大震災』, 有隣堂

松岡文平, 1972: 「もう一つの虐殺事件ー関東大震災と在日中国人」 (大阪歴史学会近代史部会, 『近代史研究』 第16号)

今井清一, 1975: 「亀戸事件と大島町事件ー王希天事件」 (関東大震災五十周年朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会・調査委員会編, 『関東大震災と朝鮮人虐殺』, 現代史出版会)